

シャッフル1回だけの秘密計算に必要なカード枚数について

A Note on the Number of Cards Required for Secure Computations with Single Shuffle

葛馬 知紀 * 豊田 航大 * 五十鈴川 頼宗 * 宮原 大輝 ††
Tomoki Kuzuma Kodai Toyoda Raimu Isuzugawa Daiki Miyahara

水木 敬明 *†
Takaaki Mizuki

キーワード 物理的暗号, カードベース暗号, 秘密計算

あらまし

カードベース暗号では, 秘密計算を実現するプロトコルにおいて, 「カード枚数」と「シャッフル回数」がその複雑さの尺度となり, これらの値は小さいほどよい. 後者の尺度を最小とする既存研究として, Shinagawa と Nuida [1] は Garbled Circuit のアイデアを基に, 任意の n 変数論理関数は 1 回のシャッフルで秘密計算できることを示した. 必要なカード枚数は, 計算したい n 変数論理関数が q 個のゲートで表現できるとき, $2n + 24q$ 枚である. 例えば, n 変数の AND 関数や XOR 関数に適用すると, それらのゲート数は $n - 1$ なので, $26n - 24$ 枚のカードを使うことになる. 本稿では, これら 2 つの具体的な関数に着目すると, 必要なカード枚数が削減できることを示す. 具体的には, n 変数 AND 関数は $4n - 2$ 枚, XOR 関数は $2n$ 枚のカードでシャッフル 1 回のみを用いて秘密計算できる.

参考文献

- [1] K. Shinagawa and K. Nuida, “A single shuffle is enough for secure card-based computation of any Boolean circuit,” *Discrete Applied Mathematics*, vol.289, pp.248–261, 2021.

* 東北大学, 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3, Tohoku University, 6-3 Aramaki-Aza-Aoba, Aoba, Sendai 980-8578, Japan

† 電気通信大学, 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1, The University of Electro-Communications, 1-5-1 Chofugaoka, Chofu, Tokyo 182-8585, Japan

†† 産業技術総合研究所, 東京都江東区青海 2-4-7, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST), 2-4-7 Aomi, Koto, Tokyo 135-0064, Japan